

「NK14」の果実特性について

果樹試験場うめ研究所

[研究のねらい]

うめ研究所で育成し、2009年に品種登録された「NK14」は、自家和合性(自分の花粉で受精し結実する)品種のため安定した着果が見込めますが、着果過多となった場合には、やや小玉傾向となります。そこで、収穫方法別(青果、完熟果)の収量及び果実品質を明らかにするため、収穫時の階級構成や果実形質について調査しました。

[研究の成果]

1. 「NK14」の着果状況は、「南高」着果良好園において着果数が「南高」の1.6倍、収量が1.1倍となります(表1)。
2. 果実階級は、青果収穫ではL級が主体ですが、完熟果収穫では一階級大きい2L級が主体となります。完熟果収穫果実のうち、2Lと3Lの占める割合は約7割になります(図1)。
3. 果実の果形は丸く、種子は小さく、果肉歩合は「南高」より高くなります(表2、図2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 「NK14」は青果収穫ではやや小玉傾向となることから、安定的に中玉果を確保する場合には、完熟果収穫が適しています。
2. 「NK14」は種子が小さいことから、果肉の多い梅干しが生産できます。

表1 「NK14」着果状況(着果良好園2園平均 2011年)

品種	着果数(果)/ 着果枝 1m	青果収量(g)/ 着果枝 1m
NK14	15.3 (159.4)	262.2 (114.4)
南高	9.6 (100.0)	229.4 (100.0)

注)2011年6月、着果良好園において調査

()内は「南高」に対する割合

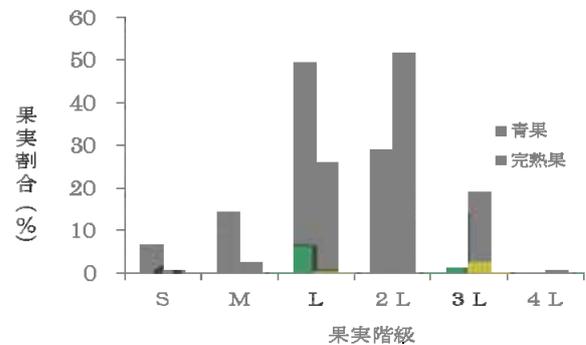


図1 収穫方法別果階級構成
注) 2012～2014年の3カ年平均

表2 「NK14」完熟果実の形質(2L級果実)

品種	果実重(g)	種子重(g)	果肉歩合(%)		果形指数 (縦径/縫合線に垂直 方向の径(側径))
			果肉重/果実重		
NK14	28.5	1.7	94.1**		99
南高	29.1	2.4	91.9		102

** t検定により、1%水準で南高に比べて有意に高い(n=10)



図2 果実断面

(問い合わせ先 0739-74-3780)